

第3章 豊中農業の将来像と基本的方向

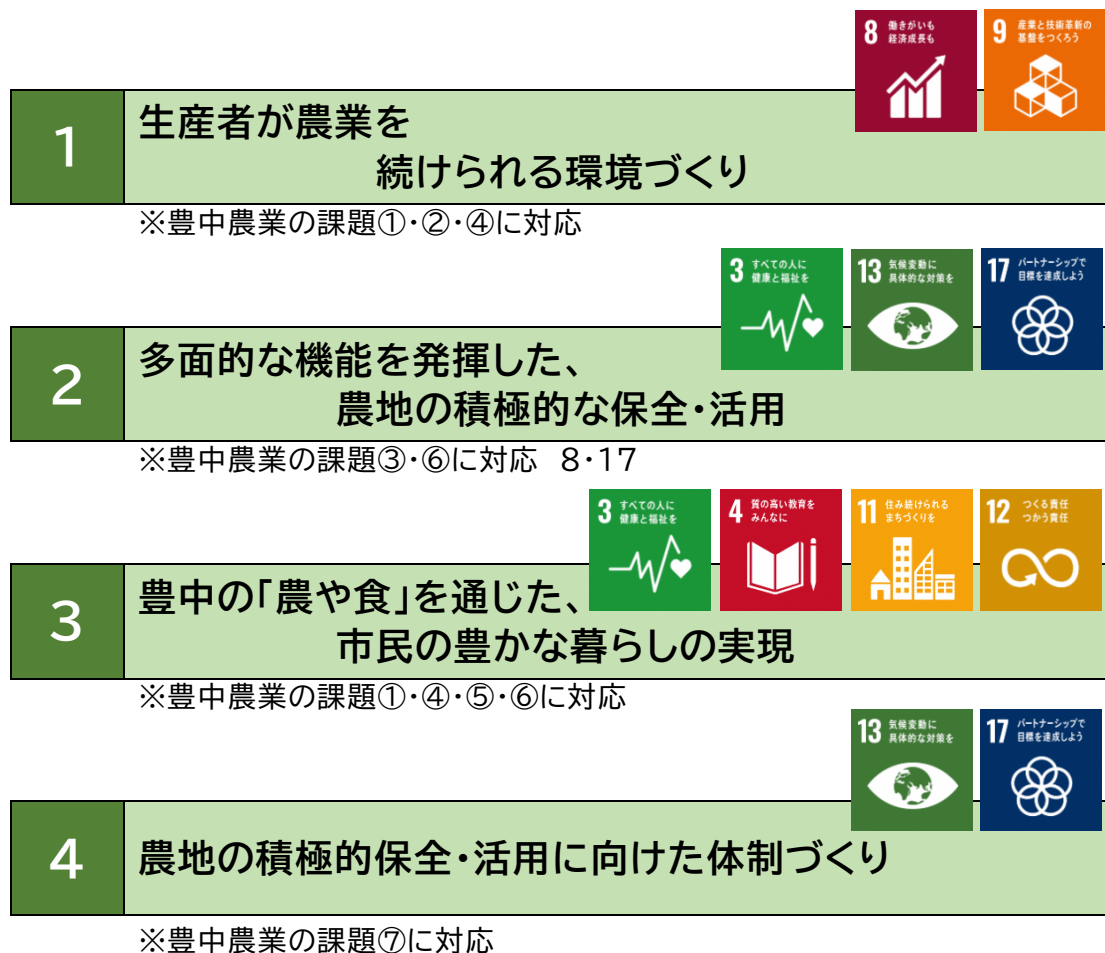
1 豊中農業の将来像

次代につなぎ、暮らしに寄りそう“豊中農業”

- 本市の農業は、農業者をはじめ、農業団体等の関係機関の協力のもと、十分とはいえなくても、市民等に対して新鮮で安全な農産物の供給がされており、また、農産物の供給以外にも、農地があることにより、季節や自然、生態系を感じる機能、市民等の交流の場、景観の形成、環境保全、防災機能など、多様な機能を発揮しています。
- しかし、農業者にとっては高齢化や後継者、担い手不足、都市化の進展、相続時に農地を手放さざるを得ない状況が発生するなど、厳しい営農環境にあり、農地面積は年々減少しています。
- 一方で、豊中農業は、生産地と消費地が共存しており、「生産者と消費者の距離が近い」という特徴があります。また、市民の市民農園や体験農園、収穫イベント等への参画意向、豊中市産農産物や加工品への購入意向は高く、豊中農業は市民にとって貴重で重要なものと認識できます。
- 市内には、環境、健康、食に関係する数多くのNPO・市民団体、農福連携*を試行する福祉事業者、豊中市産農産物を活用したい飲食店など、豊中農業へのニーズは大きい状況にあります。
- これらを踏まえ、本市では、農業が安定した魅力ある事業として成り立つよう、農業者が「営農し続けたい」と思える環境づくりを推進するとともに、日頃から豊中農業を地域や暮らしの中に積極的に位置づけ、農業者と市民や事業者などがつながり支えあう、元気な豊中農業をめざします。

2 豊中農業の基本的方向

将来像を踏まえ、豊中農業が安定した経営を営み、また、市民等から十分に理解され、応援される農業を実現するための基本的方向を以下の4つとし、基本的方向ごとに関連するSDGsを示します。



また、本計画に基づく取組を先導するものとして、5つのプロジェクトを立ち上げ、チャレンジプロジェクトとして展開します(詳細は第4章3を参照)。

チャレンジプロジェクト

- 1 「新規就農希望者等の育成&農地のマッチング」の仕組みづくりプロジェクト
- 2 市内事業者による豊中市産農産物の利活用プロジェクト
- 3 持続可能な市民農園の運営支援&新規開設支援プロジェクト
- 4 「新しいコミュニティ農園」のモデルづくりプロジェクト
- 5 農業体験が身近でできるまちづくりプロジェクト